

デンソー山岳部 2012年 冬山合宿報告書

山城 八ヶ岳 赤岳～阿弥陀岳

日程 平成24年12月30日～1月1日（予備日1日）

メンバー 亀山 誠（CL） 吉田 明和（SL・気象） 西尾 隆宏（食糧、会計）
小田 修三（記録、装備）

行者小屋から赤岳

第1日 : 12/30（月） 雨のち雪

【行動記録】 歩行＝2H10M

やまのこ村（13：30）－ 行者小屋（15：40）

前半の合宿を終えてから装備等を一通り前半組から回収して食糧を買い込みつつ、稲子湯から美濃戸口へ移動をした。移動する前からパラパラと雨が降ってきて、移動中に雨が強くなってしまった。なんとか登り口まで行く間に雪に変わってくれないかという期待も虚しく、美濃戸口に着いても雨のまま。必要な荷物を西尾の車に詰め込み、美濃戸口から美濃戸までの悪路を西尾の新車のCX5一台で登っていく。流石は四駆である。悪路を難なく登ってやまのこ村まで到着した。しかし、雨は雪には変わらぬまま登山を開始した。雪の上に雨が降っているため足場が悪く、滑りやすい。つるつると滑るので「アイゼン装着しますか？」と亀山さんに尋ねると、「デンソー山岳部の歴史の中で、この道で今までアイゼン着けたことな

いぞ」とのこと。それでは我々も着ける訳にはいかない。注意を払いつつ、そのまま登山継続。滑るのはきつと修行が足りないからである。美濃戸から一時間程登り続けても雨は一向に雪に変わらない。一本とった後、そこから更に30分ほど登った所でようやく雨が雪に変わった。食糧等を豪華にしたのでなかなかのザックの重量だが、後半のメンバーは苦ともせず軽快に登っていく。程なくして行者小屋に到着。しかし各人のヤッケや手袋はかなり濡れてしまった。気を取り直してテントを立て、装備類を乾かしつつ、しゃぶしゃぶを開始した。買い込みした白菜、春菊をみんなで手でちぎっては入れ、さらに豚肉を投入。これをポン酢につけて食べるとかなり美味しかった。手間いらずでかなりのオススメメニューである。ビールとしゃぶしゃぶで濡れた体も程なく癒された。(記;小田)

第2日 : 12/31(月) 曇り 歩行=5H50M

【行動記録】 起床(5:30) 一行者小屋 テント場出発(7:30) 地藏尾根ルート 赤岳展望荘(9:15) 赤岳山頂(10:05) 文三郎尾根分岐(10:40) 阿弥陀岳山頂(12:22) 一行者小屋 テント場着(13:20)

5:00 起床、朝食の準備にとりかかる。水の入った鍋に火を通すも気温氷点下のためか、沸くのに時間がかかる。朝食を終え、必要な荷物をまとめ行者小屋へ移動、そこで出発の準備を整える。目出帽や厚手の手袋などの防寒対策、およびシュリングやハーネスを装着し安全対策に万全を期した。7:30に出発、地藏尾根をラッセル気味に歩いていく。樹林帯の中なので風はない。1時間程すると樹林帯を抜け岩場へと変わる。所々、片側が絶壁となっていて怖い。滑りやすい急登を、小田さん、西尾くんとトップを交代しながら一步一步足場を確認しながら登る。9:07、地藏尾根を登り終え稜線へと出る。稜線は強風かつ氷点下もあってか顔が痛い。強風が顔に打ちつけられるのをヤッケのフードで防ぎながら前進する。10分弱で赤岳展望荘に到着、ここで一息入れる。展望荘の中は温かく、冷えて疲れた体が癒されていく。体を幾らか休めた後、再び出発。強風の中、赤岳山頂を目指して登る。向こうから、赤岳山頂を登った多くの登山者が下りてくる。その登山者たちをよけながらゆっくりと登る。10:05、赤岳山頂に到着する。山頂では風がおさまっている。周りの山々は曇っているため見えない。素早く集合写真を撮った後、阿弥陀岳に向けて出発する。10:40、文三郎尾根分岐を通過し、10:50に阿弥陀岳の登り口へ到着する。阿弥陀岳を登り始めると、急斜面かつ所々岩場も続き、振り返り下を見ると恐怖心がわいてくる…。恐る恐る冷や汗をかきながら登っていく。12:22に阿弥陀岳山頂に到着する。下山時も慎重になりながら下り、13:20にテント場に到着した。(記:吉田)



赤岳山頂にて



阿弥陀岳山頂にて

第3日 : 1/1(火) 曇り 歩行=5H00M

【行動記録】 行者小屋出発(5:30) 文三郎尾根分岐(6:40) 下山開始(6:50) 一行者小屋テント場着(7:30) 出発(9:30) 赤岳山荘駐車場(10:30) もみの湯(12:00)

月明かりとヘッドランプを頼りに登山開始。日の出時間に近づくとつれ、赤岳が青白く光ってきて幻想的だった。しかし、分岐に近づくと猛烈な風に襲われ、足もともおぼつかない。やっとの思いで文三郎尾根分岐に着く。分岐付近は猛烈な風が吹いており、初日の出は見えそうにない。早々に下山開始、向かい風となり、なかなか歩くのがしんどい。耐風姿勢を亀山さんに教わりながら下山した。途中、休憩していると主稜したあたりに人影が。大丈夫と大きな声で聞くと大丈夫との返事。そのまま下山開始し、行者小屋テン場へ。結露で凍ったテントの片づけに手間取る(ブツブツ)。赤岳山荘駐車場に到着、愛車のエンジンをかけると信じられない事にエンスト。吸気口が雪で塞がれているのを小田に発見してもらった。31に降った雨が凍った影響もあるかもしれない。美濃戸口への下りもスタッドレスだけでは心もとなかったが、低速で切り抜ける。最後まで気が抜けない合宿だった。1/1日12時開始のもみの湯で六日ぶりの風呂。到着時間のタイミングばっちり、身も心も綺麗になって新年を迎えた気がした。(記; 西尾)



雪で作った鏡餅で正月を迎える

<リーダー所見>

12年度はそこそこハイレベルの雪山をいくつかこなす中、若手のスキルも上がってきており、後半組での南八ヶ岳の計画を設定した。31日は前半の北八ヶ岳とは打って変わって結構厳しい天候の中、新雪をラッセルしながら地蔵尾根に取り付き慎重に岩稜を若手三人でトップを交代しながら攀じった。

阿弥陀岳も新雪の急斜面にトレースを付けて登る幸運に見舞われた。1日は文三郎尾根分岐辺りから強風の中、赤岳の途中までを行動したが、なかなか厳しい中での行動であったが、全体にきびきびした動きで気持ちよい。後半組にふさわしい内容の濃い行動ができたことがよかった。今後も中・長期の目標に向かって着実にスキルアップを図りながら充実した山行活動を期待したい。

<食糧所見; 西尾>

合宿後半は男4人であるため、荷揚げ能力があること、テン場にデポできることから、豪華メニューとして豚肉しゃぶしゃぶ、おでん、年越し蕎麦を用意した。また、雪山で食べるおしるこも最高でした。次回もおしるこに入れる餅多めで用意しておきたい。

<装備所見; 吉田、小田>

・今回、初めてスタードームテントを冬山へ持ち込んだが、快適性の面で幾つか難点があった。1つは、テント内で火を起こすと次第に結露が発生、テント全体が濡れていささか不快であった。撤収時は結露がバリバリに凍っており、その凍った氷を手で掃ってもくっついたまま。やむを得ずそのまま畳むと、テント袋に収納できない大きさとなった(外張りは3倍程度の体積膨張)。もう一つ、冬山の荷物量で4人では手狭に感じた。このテントと同重量のV6テントのほうが結露発生しにくく、テント内空間もより広く快適に過ごせるのでは?と考えると、次回はV6テントを冬山へ持っていき、スタードームテントと快適性を比較したい。

・電池のランタンは明かりが弱く感じられた。電池が減っているのかも。一度電池を入れ替えて比較してみるべき。前半の合宿で森さんがLEDと袋で簡易的に作っていたぼんぼり?提灯?は明るかった。あれを作っても良いかも。今後の参考としたい。

<気象報告>

12/30(日)

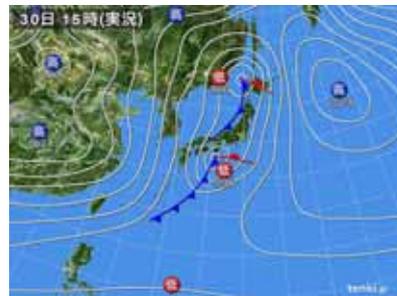
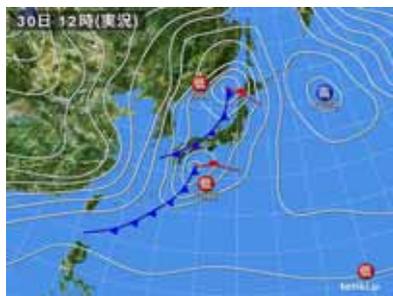
日本海低気圧と南岸低気圧が日本付近を北東に進む。夜の初めに寒冷前線が八ヶ岳付近を通過する模様。その後は次第に冬型気圧配置が強まる。

12時 美濃戸口(1500m) 湿雪 -1°C 南の風 10m/s

16時 行者小屋(2330m) 雪 -2°C 南西の風 20m/s

ただし南西風は阿弥陀岳の稜線で遮られるためテン場の風はもっと弱い。雪は21時頃には止みそう。

***美濃戸出発時は雨であったが1時間後、標高が高くなったためか雪にかわった。**



12/31(月)

低気圧はオホーツク海と日本の東海上に進んで、日本付近は強い冬型気圧配置になる。

6時 行者小屋(2330m) 晴 -2°C 南西の風 13m/s

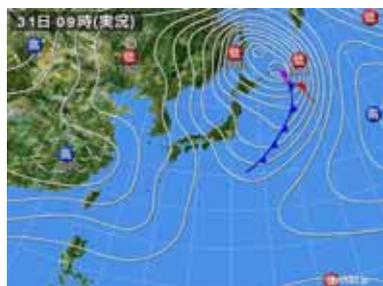
ただし、主稜線に上がるまでは風は弱い。

9時 赤岳(2899m) 晴 -7°C 西南西の風 20m/s

11時半 阿弥陀岳(2805m) 晴 -8°C 西南西の風 15m/s

13時 行者小屋(2330m) 晴 -10°C 西の風 10m/s

***行者小屋を出発し稜線に上がるまでは微風、主稜線は強風であった。強い吹雪で目が開けられないときもあった。**



1/1(火)

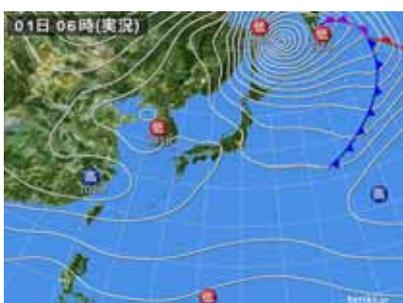
日本海西部に低気圧が発生して、冬型気圧配置は一旦緩む。稜線に上がれば初日の出が期待できると思うが、現地の状況による判断をお願いする。

6時の赤岳で晴 -15°C 西の風 20m/s。

7時 行者小屋(2330m) 晴 -13°C 西の風 16m/s

9時半 美濃戸口(1500m) 晴 -8°C 西南西の風 8m/s

***文三郎尾根分岐～赤岳山頂に向かうルートは、体が飛ばされそうな強風であった。行者小屋～美濃戸間では風はほとんど感じなかった。**



■感想

前半2日目は快晴で、硫黄岳と天狗岳山頂から遠くのアルプス山脈をはっきりと見渡すことができ、感動した。後半の赤岳と阿弥陀岳では、急登や岩場が多く登るのに苦労したが、その分充実した山行となった。【吉田】

雨に降られた後に雪になるなど、天候は厳しかったが、いい経験になった。地蔵尾根のルートでは若干肝を冷やした。行者小屋ではカモシカと遭遇、やまのこ村では鹿と遭遇した。何かと盛りだくさんの充実した山行で楽しめた。同行メンバーに感謝。【小田】

天気が悪く厳しい寒さになると思っていたが、前半の北八ヶ岳は硫黄、天狗と晴れの中でのラッセルとなり、大いに楽しい山行だった。後半は30日に雨に降られたものの、赤岳、阿弥陀と無事登頂でき、そしてなにより山でお正月を迎えてしまったので、忘れられない山行となりそう。地蔵のリッジ通過もスリル満点だった。【西尾】

<会計報告>

【費用】 一人あたり 4,200円（帰りの交通費含まず。）

- ・食材・嗜好品 6,300円 : 白菜、豚肉、おでん、そば、雑炊他
- ・テント場 4,000円 : 行者小屋
- ・駐車料金 4,500円 : 美濃戸口、やまのこ村
- ・高速道路、ガソリン、車代 1200円
- ・チャリティ 800円 : 200円/人
- ・ 以上合計 16,800円